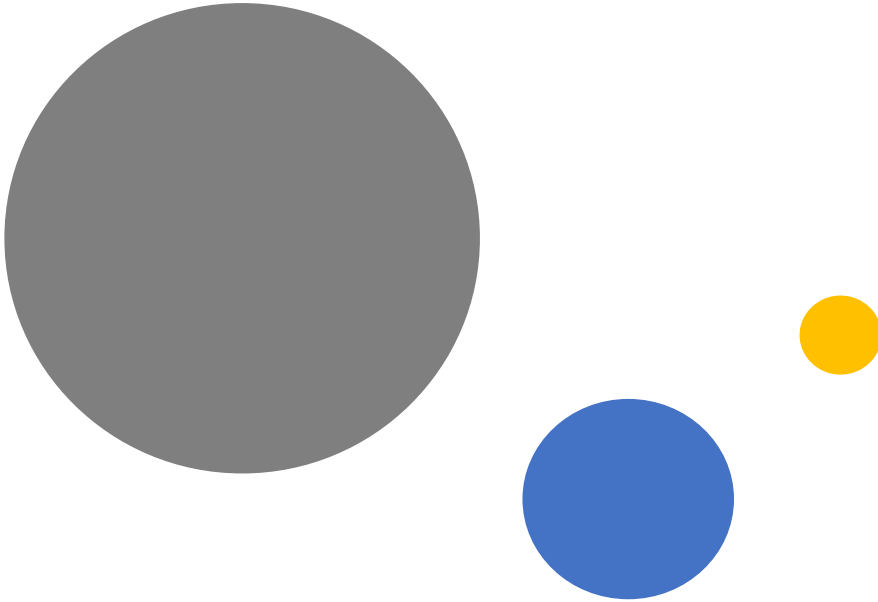


福永啓議員



一般質問ファイル

議会広報「あおぞら21」から



4期目

令和5年(2023年)4月～

「町づくり条例」の策定は

A. 関係各課で研究を進めている

動画をチェック▶



質問の背景

順調な人口回復が続いている御船町において、町民と共に町づくりの理念を共有することが重要と考え質問した。また厳しい財政状況が続く下水道会計について、し尿と汚水の一体処理が財政課題解決の糸口となるのではないかと考え質問した。

1. まちづくりの将来イメージについて

問 御船町の人口は、13か月連続で前年同月比で増加している。最近3か月は県内45市町村で増加率が1位となっている。人口の回復傾向が続いている今こそ、景観や開発等に対する町づくりの理念を明文化した「町づくり条例」を町民と共に作り上げることが必要ではないか

まちづくり課長 豊かな自然や景観、文化などが残る地域はそれを保全し、地域経済を発展させる地域は開発を促進し、全体で調和のとれたまちづくりを目指している。現在、町づくり条例などについて、他の市町村の条例を調査しており、関係課で研究を進めている。

2. 下水道を含む排水処理の課題について

問 し尿処理と下水処理は基本的に同じ作業である。下水処理場内にし尿等の希釈施設を作り一体的処理をすれば合理的であり、し尿等の処理を別組織で行うより、御船町及びし尿等を合同で処理している近隣町にとっても財政的に有利ではないのか。

環境保全課長 し尿と下水の一体処理については、国や県が推進している事業でもあるが、各種課題について整理したうえで検討していく。



現在、下水・し尿等の処理は別組織、別の場所で行われている

熊本県推計人口/前年同月比ランキング

順位	2024年2月			2024年1月			2023年12月		
	市町村	人口増減率(%)	人口増減数(人)	市町村	人口増減率(%)	人口増減数(人)	市町村	人口増減率(%)	人口増減数(人)
1	御船町	1.21	392	御船町	1.13	326	御船町	1.12	281
2	益城町	0.99	326	益城町	0.99	266	合志市	1.02	273
3	西原村	0.97	249	嘉島町	0.82	223	益城町	0.86	209
4	嘉島町	0.88	199	南小国町	0.71	188	嘉島町	0.83	184
5	南小国町	0.58	104	菊陽町	0.42	185	南小国町	0.55	152
6	合志市	0.57	87	合志市	0.42	81	合志市	0.43	82
7	菊陽町	0.23	84	西原村	0.41	27	菊陽町	0.34	87
8	熊本市	0.03	21	熊本市	0.03	29	熊本市	0.02	29
9	大津町	▲0.01	-2	大津町	▲0.06	-16	大津町	▲0.09	-10
10	平土市	▲0.33	-8	平土市	▲0.35	-22	南阿蘇村	▲0.13	-12

御船町の人口増加率が3ヶ月連続で県内一となった

質問を終えて

今は二つの組織でし尿処理と下水処理をしているが、効率の面からも財政的の面からも一体処理に関して早急な検討が必要であると感じた。

御船町の人口増加は

A.可能性にあふれている

質問の背景

近年、堅調に推移している町の人口だが、その中身について各種統計等で深堀していくと課題が浮き出てくると同時に、その課題に対する解決策も見えてくるのではないかと考え質問した

問 本町において減少を続けていた人口は近年、回復傾向が続いている。一方で、日本全体としては少子高齢化社会を迎え、人口が減少していく中、本町においても、「日本の人口は減っていくのだから、どんなに頑張っても、これから先人口が減っていくことは仕方がないんじゃないか…」などといった思いに駆られることがあるかもしれない。しかし、本町においては人口増の可能性はあるのではないかと

町長 私も人口増について可能性にあふれていると思う。本町において、インターチェンジ周辺および国道沿線への企業誘致や、子育て環境の充実の取組等により、若年層の人口も増加傾向にある。今後も本町の可能性を更に力強いものとし、人口増加に取り組んでいく。

問 団塊の世代がすべて65歳以上の老年人口に突入したので、老年人口も老年人口割合も頭打ちになり今後減少傾向が想定されるが、高齢者の医療、介護にかかる費用との関係性はどうか

福祉課長 介護保険認定の約9割は後期高齢者であり、後期高齢者の人口はまだ増加していく。そのため、短・中期的には介護に係る費用について増加を見込んでいる。

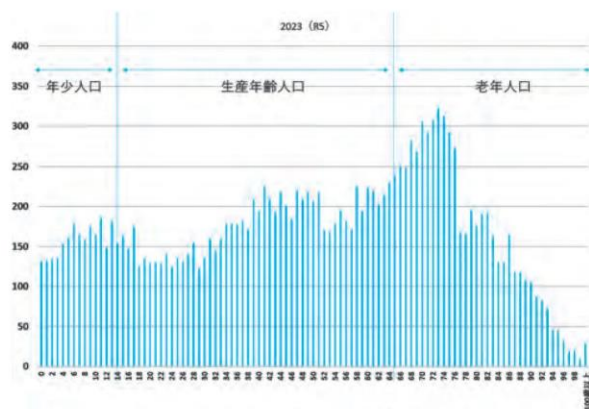
問 本町の人口を支えている年少人口、子育て世代人口だが、出生数と出生率に関しては県内最低レベルである。本町の出生数と出生率を上

げるため、いわゆるワンオペでも安心して出産、子育てができるための施策が必要ではないか

こども未来課長 町の将来を見据え、新たな独自支援施策を検討している。また、既存事業においても更なる利便性の向上や負担軽減を図る。

問 町全体で見れば人口が増えているが、中山間部の人口は減少が続いている。ソフト面に加えてハード面でも何か新たな事業を行わないと中山間部の可能性を引き出せないのではないかと。町全体としてよい流れに乗っている今こそ、中山間部活性化のチャンスではないかと

町長 御船町の中山間地域に、おためし移住体験できる仕組みを考えていきたい。中山間地域の活性化に向け庁内会議も立ち上がり、中山間地域が魅力あるものとなり移住定住していただけるよう各課が連携し、前向きに取り組んでいく。



令和5年御船町人口（年齢別分布）

質問を終えて

人口に関する統計、資料等に関する要因分析及び課題抽出等は町にとって有意義かつ必要な作業であるが、専門的知見の活用が不可欠であると感じた

教育・子育て環境の充実を

A.教育・子育ては、町の重要政策



◀動画をチェック

質問の背景

教育・芸術文化の振興・子育て支援の充実がこれからの町づくりに必要不可欠であると考え質問した。

〔問〕 小中学校における教育環境、子育て環境をどのように整備し、町内外の高校、大学等とどのように連携、支援し、まちづくりや町内活性化、人口増などに結び付けていくのか

町長 藤木町政3期目に取り組む「10の重要政策」に「教育の充実」「子育て施策」を掲げている。町内には、認可保育所・認定こども園、小・中学校、高校、大学があり、この恵まれた環境を活かし関係機関と共に「人を育むまちづくり」を進めていく。



子どもの人口は熊本地震以前を大きく超え、御船町の人口が1万8千人を超えていた当時と同じになっている。

〔問〕 0歳から18歳までの子供の人口推移はどうなっているか。御船町の人口を下支えしているのは子育て世代ではないのか

こども未来課長 熊本地震以降一度は減少したものの、現在では地震前の人口を超えるV字回復となっている。この状況からも、本町の人口は、子育て世代の年代を中心に増加傾向にある。子ども・子

育て世代の人口増加が、本町の未来を大きく左右するものと認識しており、そのためにも将来を見据えた子育て支援の取り組み強化は喫緊の課題である。

〔問〕 教育と子育て環境が充実し、芸術文化の香り漂う「ステキなまちづくり」を成し遂げ、子育て世代から、「御船町ってなんかいいよね、住んでみたいよね、」などと思っていただくことこそが「ワクワクするまちづくり」の核ではないのか

町長 御船町は、教育・文化・芸術があふれる街という印象があると話を聞くことが増えてきた。また、人口増、特に子育て世代の人口増などは、他町からうらやましく思われることも増えてきた。しかし、そのような評判に安住することなく中山間部、平坦部共にステキな街づくり、わくわくするまちづくりを推し進めていきたい。

〔問〕 御船高校は県立だが、町としても積極的に支援、連携を図るべきではないのか。また、御船町の抱える課題を解決するために、大学等の専門的研究機関と共同研究を推進し、連携協定等を締結するなど、さらなる連携を深めるべきではないか

まちづくり課長 高校との関りは大切にしている。今後、御船高校を知っていただくための情報の発信や、高校と連携して事業実施を検討し、御船高校の先生方と意見交換等を行っていく。本町にどのような地域課題があり、どのような調査・研究を希望するのか明確にし、精査したうえで共同研究や包括協定等についても前向きに検討していく。

質問を終えて

御船町の人口増加傾向を維持し、人口減少に歯止めをかけるためには「子育て世代が住みたい」「この町で子どもを育てたい」と思える町づくりが必要だと感じた。

どのようなまちづくりを目指すのか

A. 町民と共に、調和の取れたまちづくりを目指す



◀動画をチェック

質問の背景

町長選挙及び議員選挙共に無投票だったことから、藤木町政3期目の町づくりに対するイメージが町民に伝わりにくかったため、町づくり全般に対して質問した。

問 熊本地震被災から、創造的復興へと進む中、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻と、予想しえない惨禍に見舞われ、町民の皆様には、我慢や苦労を強いてきた部分が多々あると感じる。しかし、そのような惨禍に見舞われながらも、町の人口が回復傾向にあることや、税収増、町の貯金(財政調整基金等)の増など、町にとって明るい兆しがいくつかある。今こそ、町民皆様のためのまちづくりを本格化する時ではないのか。

町長 3期目は、まさにそういう時期だと考える。2期8年で得た経験やノウハウ、人のつながりを大切に、3期目のまちづくりに邁進していく。

問 企業誘致等が進み、町が発展するのは良いが、乱開発になることはないか。

町長 「目標を達成するためには手段を選ばない」というまちづくりを行うつもりは全くない。地域経済を発展させる開発を促進しながら、自然・環境・文化等の調和の取れたまちづくりを目指していく。

問 そのようなまちづくりを目指すうえで、町づくり先進地では一般的な、景観や街づくりに関する条例制定が有効ではないか。

企画財政課長 条例の制定については、住民の理解を得る必要があることから、まずは他自治体の事例を見ながら勉強することから始める。

問 人口減少が著しい中山間部の課題にはどう対応するのか。

企画財政課長 中山間の課題解決には、集落の維持・機能強化はもとより、人と人、地域の繋がりへの構築に向けた地域コミュニティの再生を図っていく必要がある。中山間地域の拠点となり、地域振興に寄与する施設整備や、住民の相談など即座に対応できる環境整備に取り組む。

問 中山間部も平坦部も同じ御船町である。中山間部についての施策等について検討するときは、平坦部の方も当事者であるので、共に中山間部の事について、考えるような体制をとるべきではないか。

企画財政課長 中山間部の活性化のための施策推進には、平坦部の方々の理解も必要であり、一緒になって考えていく仕組みを作りたい。

